

【今年度の取組と自己評価、達成度、課題と対策】

校長 永森比人美

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
学習指導	外部委託の生徒による授業評価を行い、評価データに基づいた研修会を開催し、評価項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる」の達成率を80%以上にする。	各教科で授業改善を進めたところ、評価項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる」の達成率は78.8%（6月）から79.2%（10月）であった。	B	経年変化の分析を行い、評価結果を踏まえた授業改善を一層進める。
	探究学習の深化やカリキュラム開発に向けて、専門家を招聘した校内授業研究やティームティーチングでの試行実施を通して、授業力の更なる向上を図る。	国内大学5校と連携して探究学習の深化について研究した。また、文理融合新科目の在り方について検討するとともに、シラバスの作成・模擬授業を行った。	A	大学連携を強化して、より多くの教員を取り込んでいくことが求められる。新科目がスタートするので、準備を進めていく。
	理数リーディング校として、大学や研究機関との連携の下、フィールドワーク活動による探究活動及び論文作成を通して、理数に対する興味・関心を高めるとともに生徒の多面的・多角的思考力を養う。	入笠山天体観測、檜原村フジの森、京大訪問などの取組や大学研究室との連携を図り、探究活動の充実を図った。各種コンテストにも多数参加して入賞者を出した。また教育支援団体によるゼミ支援を行った。	A	各種コンテスト等への参加者は増加しており、今後もさらに参加を支援していく。
	知的探究イノベーター推進校として、理数イノベーション校で培った大学や研究機関との連携をさらに深め、文・理を越えた価値創造力を鍛える教育を推進する。	WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校となり、関係分掌、関係教科等をメンバーとしたPTを作り、大学や企業等と連携して様々な取組を行い探究学習を深化させた。また、CLILの実践や新教科MIEの開発を行った。	B	WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校として、文理協働の可能性や探究学習の深化などをさらに検討していく。
	英語教育推進校として、オンライン英会話等の効果的な指導を生かし4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスのとれた英語教育を推進し、外部検定試験等英語の資格取得を促す。	4技能をバランスよく習得できるように、オンライン英会話、GTEC全員受検など、英語科と進路部が連携して取り組んだ。また、ライティングの指導および評価方法について研究を進めた。	A	第二期英語教育推進校として、英語科全体の取組をより一層充実させる。特に「書く・話す」という表現力の育成を図っていく。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
学習指導	東京都イングリッシュ・エンパワーメント・プロジェクトにより派遣されるJET 2名を放課後のReading and Discussion講座及びGlobal Scholarsの取組等に関わらせ、生徒の英語を通して様々なテーマに基づく議論ができる能力や他国の同世代の生徒との交流を通して異文化理解に係る能力等を育成する。	昼休みのイングリッシュ・ランチを継続して生徒の英会話に対する興味関心を喚起した。ALT が選んだニュース記事を読んでその内容について英語で討論する講座にJET 2名も加わり充実した活動となった。	B	生徒が実際に英語を使う機会が増えてきており、実践的な英語力を身に付けてきている。今後もT G Gのプログラム等も活用しながら実際に英語を使う機会を増やして一層の効果を図っていく。
	東京体験スクールで留学してくる生徒と共に本校生徒を高校生国際会議に参加させ、国際感覚を身に付けさせるとともに、多角的、多面的な視野を育む。	東京体験スクール事業により、オーストラリア、ニュージーランド、台湾からの14名の留学生を受け入れ、生徒宅にホームステイをした。ホームステイ先の生徒が留学生とともに、第1回高校生国際会議に出席して、異文化理解を深めた。	A	前期生と後期生にまたがってホームステイの受け入れを行ったが、前期と後期では様々なルールが異なっている。今後は後期生のための受け入れとしていく。
	あらゆる学習活動の機会において主権者教育に取り組み、平和で民主的な国家・社会の形成者として求められる力を培う。	3年生の社会（公民）、6年生の政治経済の授業を中心に主権者教育を行い、社会や政治についての関心を高めた。	B	各学年の指導計画に主権者教育の視点を明記する。生徒の関心をより高める工夫を行う。
	「道徳」の授業を通して、道徳的価値の自覚を深めさせ社会の様々な場面や状況に応じて適切に選択・行動する能力を育成する。また、人間関係の構築に必要なコミュニケーション能力を向上させるとともに、人間としての在り方生き方に関する自覚を深めさせ、道徳的実践力を育成する。	【前期生】 11月10日（土）道徳授業地区公開講座を開催し、保護者・地域などに広く理解を求めた。また、自主自立、思いやり、生命尊重、規範意識など適時適切な主題を設定し道徳的価値の自覚を深めさせた。	B	来年度、特別な教科「道徳」となることを踏まえ、指導の方法や具体的な評価方法などを検討して、よりよい授業を行う。
	「人間と社会」の授業において、社会の現実に照らした体験活動や演習を通じて道徳性を養い判断基準を高めることで、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成する。	【後期生】 ボランティアなどの社会活動や、様々な有識者による講座によって、社会への理解や視野、自分がその一員を担うという意識が生徒の間に芽生えた。	B	今後の自己実現に向けて、幅広い考え方や意見を議論し合うことで社会性や様々な価値観を学び、より良い生き方を主体的に選択し行動する力を身につける。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
生活指導	いじめ防止 ・いじめのアンケートを活用し、生徒指導部及び各学年によるケーススタディを年3回以上実施し、いじめの早期発見・早期解決に当たる。 ・PTA役員会や生徒会との連携によるいじめの防止策を検討する。 ・生徒が作成したSNS東京ルール为学校版を基にして、SNS等への書き込みによるトラブルの防止や携帯電話等を適切に利用することができる資質・能力を養う。	・6、11、2月に実施した。早期発見と情報共有および経過観察を丁寧にできた。 ・“SNS利用について考える会”を後期生徒会役員と前期3年生有志が中心となり、自立的に活動を進めた。 ・実態調査を行い、問題点の抽出と改善策を検討した。今後、全校への呼びかけを行う予定である。	A	SNSに関しては、生徒に考えさせる指導を継続しながら、保護者への協力を要請し、外部講師を招いての講演会を開催して多面的な指導を行う。
	学級活動、朝礼、学年集会等における講話を通して、社会人として必要とされる基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）を身に付けさせる。	・身だしなみ指導を定期的に行った。後期課程の制服採寸を学校で行って着用基準を周知し、進級前から服装指導を行っている。また、登下校マナーアップキャンペーンも実施し、生活委員による朝の街頭での呼びかけを毎月実施した。	B	登下校マナーアップでは信号によって歩道橋と横断歩道を使い分けることで混雑が緩和し、近隣の苦情はほとんどなくなった。また、下校時間の指導を進める。4月は新入生の登下校マナー定着の取り組みに注力する。 後期生の着崩しが懸念されるので、生活委員会の主体的な取組に期待する。
	八王子警察署との連携の下、「命の講演会」や「犯罪被害者の講演会」を開催し、生徒に「命の大切さ」を深く考えさせる機会を与え、心の教育を推進する。	八王子警察といのちの講演会を催した。1年おきに犯罪被害者と交通事故被害者のご遺族の気持ちを聴くことで、自身の生き方、社会の在り方を気づかせることに繋がった。	A	次年度も講演会を開催し、全国作文コンクールにも継続して参加する。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
生活指導	産婦人科医及び精神科医を活用して、性に関する教育やメンタル面での支援を行う。	1年生および3年生に対して、産婦人科医による人権教育（性教育）を行った。性を通して、他人への思いやりの心について教育を行った。また、3年生および保護者に対して精神科医による講演会を行った。	A	次年度も講演会を開催し、他人への思いやりの心について教育を進めていく。
進路指導	チューターを活用し、生徒の自主学習を教員と共にサポートする。	平日放課後、原則2名以上のチューターを配置して、自主学習支援を行った。後期生の受験相談および3年接続補習でチューターが活躍する場面があった。	B	1月中旬以降自主学習支援場所の固定ができないことが課題である。年間を通して常駐できる場所が必要である。
	自習室を整備し、生徒同士の学び合いの機運を醸成する。	各HR教室、視聴覚室、未来門、廊下自習スペースを自習場所として活用し、生徒の利用度も高い。	A	視聴覚室は校内行事で使用できないことも多いので、専用のスペースが必要。未来門も利用希望人数に比し手狭である。
	外部機関を活用した進学指導コンサルティングを通して得たデータを基にして、生徒や保護者の進路面接や進路指導に生かす。	進路に関する情報を適宜、教職員、生徒に提供した。進路通信を年10回発行。進路ガイダンス・進路学年集会は学期に2回以上実施した。保護者会では年2回、進路部の報告をした。	A	卒業生が増えてきたので、卒業生データを整理し、生徒指導に活用していく。また卒業生の講演等をこれまで以上に実施していく。
	センター試験や難関大学の問題分析、予備校研修の分析会等の参加を通して、教員の受験指導力を向上させる。	大学入試センター試験問題分析集、難関大学入試問題分析集を作成発行した。また大学入学共通テストプレテスト分析も実施した。予備校の研修会に主要教科の教員が参加した。	A	2021年度以降の大学入試に対応した指導体制を整備していくことが課題である。
	国内外の大学と連携し、教員の各教科の専門性を高める。	東京外国語大学、東京農工大学と教員の情報交換を実施し、探究活動および英語・理数教育の指導について研修することができた。また首都大学東京とは次年度開講科目について指導をうけた。	A	大学の授業や研究会に参加する機会を確保していく。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
進路指導	大学の教員と本校教員の懇談会を通して、高大接続の在り方を研究する。	東京外国語大学、東京農工大学と教員の情報交換を実施した。また首都大学東京の高大接続研究会に参加し、高大接続に関する情報交換をすることができた。	A	継続的に情報交換して、相互に訪問できる枠組みを構築していく。
	企業との連携を図り研究所への訪問や企業研究者から生徒への課題の投げかけを通して、課題解決型の生徒の力を高める。	(株)ClassiとPBL型の学習を実施した。東京都産業技術センター研究員と生徒による牛乳パックに関する議論を行うことができた。	A	企業とのPBL型学習をさらに進める。ビジネスプランの作成やビジネスプランコンテストへの参加を図る。
	同窓会あかね会の協力の下、卒業生の進路追跡の方策を検討する。	卒業生の進学先、連絡先の登録をしていく。	B	1期生の就職状況を把握していく。
特別活動等	異年齢集団の交流を取り入れた行事（体育祭、合唱祭、文化祭）を通して、生徒の思いやりの心、人間関係調整力、克己心を培う。	体育祭では6年応援団が縦割りの6学年をまとめ運営面でも活躍した。合唱祭では縦割練習を行い、後期生が前期生に指導助言した。文化祭では実行委員会が前期生をよく指導した。全体を通して、後期生が範を示し具体的な目標となっており、前期生に刺激を与え成長を促した。	A	昨年度の各行事実施後のアンケート結果から検討課題を見出し、改善策を生徒に考えさせ、引き続き生徒の主体的参加を進めながら質的向上と省力化を図る。
	オリンピック・パラリンピック教育の一環として本校を会場とした「夢街道駅伝」に生徒を積極的に関わらせると共に、1年生の体育の授業で東京五輪音頭2020を取り入れ、生徒の中にレガシーとして残る教育を展開する。	「夢街道駅伝」は、今年度は会場としての使用を断ったが、陸上部を中心にボランティアスタッフとして協力した。東京五輪音頭2020は、8時間の指導案を組み体育の授業で指導している。	A	東京オリンピック・パラリンピックが実施延期となるが、生徒のモチベーションを維持し、レガシーとして残る教育を継続する。
	指導体制の工夫改善及び各部活動で前期課程から後期課程への円滑な指導の接続を図り部活動を活性化し、生徒の体力や気力を向上させる。また、3年生の夏休み明けに実施する接続テストを用いて、生徒に高校生になる心構えをもたせる。	部長会を前期後期合同で行い、年間を通して交流を図った。後期への接続に関して3年の夏季休業前から体験入部を行い、2学期から入部届を提出できるようにしている。また、3学期から後期課程の活動時間で活動できるようにして後期への円滑な接続を図った。さらに、部活動の規定も見直し、実態に即した内容に改訂した。	B	学習との両立と傷害予防の観点から活動時間を調節しながら、後期への加入率を高める工夫改善を継続して実施する。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
特別活動等	防災活動支援隊の活動の充実を図るため、専門機関（工学院大学等）と連携した防災教育の研究をさらに深める。	工学院大学と連携して、一時滞在施設の開設、運営に関する研究を行った。12月には作成した運営マニュアルを活用して開設訓練を行うことができた。その成果と日常の活動を東京都高校生防災サミットで発表した。	A	今までの研究成果を見直し、さらに質を高めていく活動を行いながら、防災教育に関する情報発信と、地域交流を活発化する。
	朝読書の推進や図書館の効果的な活用により、生徒の読書の量や質を向上させる。	前期生の朝読書、100冊プロジェクト、図書館司書の指導による前期生ビブリオバトルへの参加に加えて、各教科及び総合的な学習における図書館利用を進めた。 前期生の図書貸出平均冊数 25.5冊/人 1年生の図書貸出平均冊数 31.9冊/人	B	読書の推進に向けて図書館活用を一層進める。
	年間保健指導計画に基づき、担任、養護教諭、栄養士、保護者と連携し食育を推進する。	年2回の給食運営委員会の実施、保護者対象給食試食会の実施により食育を推進した。	B	大きな課題はないが、内容の充実を図る。
	保健便り、給食便りを発行し、保護者等と連携してアレルギー対応に十分注意を払い、生徒の健康づくりを進める。	保健便り、給食便りを定期的に発行し、家庭との連携、健康づくりを推進した。	A	アレルギー対応に十分注意をして、継続する。
	オーストラリアの研修旅行を生かし、オリンピック・パラリンピック教育（世界ともだちプロジェクト）の対象国であるオーストラリアとの関わりを深め、言語、文化、歴史などを学ぶことを通して、単に知識を広げるだけではなく、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる。	ホームステイが多くの子供にとってとても貴重な経験となった。体調管理等で難しい状況もあるが、継続することが望ましい。その他、各種アクティビティに参加し、それぞれの興味に合わせた学びを行うことができた。	B	ホームステイを継続するとともに、学校交流の検討をする。体調管理など、外国に旅行をすることを踏まえた準備と保護者への周知を徹底する。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
組織体制	各分掌・学年の年間業務一覧を作成し、全教員が分掌や学年の壁を越えて業務内容等に関する情報を共有できるようにする。	分掌や学年の業務一覧による業務把握を行ったが、分掌・学年を超えた情報共有までは至らなかった。	C	分掌・学年間の情報共有を一層進める。
	学校の目指す方向性、校務の進捗状況を職員室に掲示して、教職員が絶えず校務全般に対する状況を把握できる環境を整える。	企画調整会議や担当分掌・委員会において進捗状況を把握し、校務全般の状況把握を全教員が行った。	B	大きな課題はなく継続する。
	校務内規等の整備を通して、全教員が同一の視点で生徒の教育に当たれるようにする。	校務内規の課題に対して担当分掌が検討し学校として修正した。	B	今後も課題毎に検討・修正する。
	OJT機能を活用して組織運営を行う。	若手教員と共に課題解決に向けて取り組むことがOJTにつながっている。	B	OJT対象者を明確にしてこれまで通り進める。
	校内の言語環境を整えるため、教職員が生徒の範となる言動を心がける。	職員会議や企画調整会議や個別指導を通して、特に生徒指導における言動について注意喚起し、言語環境を整えた。	B	分掌会議や学年会議、また、教員同士の触れ合いの中でも自浄作用を高めていく。
募集対策	塾や小学校への広報活動を積極的に行う。	管理職を中心に、ena、栄光ゼミナール、Z会等の説明会に参加した。また、町田市の小学校長に向けて広報活動を行った。	B	さらに近隣の市町村の小学校に広報活動を進める。
	授業公開、学校紹介及び学校説明会の内容の充実を図る。	授業公開、学校紹介等には昨年度を上回る参加者があり、盛況であった。	A	効果分析を行い、さらに組織的な取り組みとしていく。
	ホームページに新規事項を適時・適切にアップする。	ホームページは適時・適切に更新した。	A	大きな課題はない。今後も適切に更新していく。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
募集対策	様々な分野の大会やコンテストに生徒を積極的に出場させる。	美術部 創彩展東京都教育委員会賞 世界水素技術会議（WHTC）2019 KWN（キッズ・ウィットネス・ニュース） 前期陸上部 関東・全国大会出場 小・中学校将棋団体戦 全国大会出場 後期太鼓部 全国大会最優秀賞 日本生物学オリンピック2019 銅賞 起業・創業ラボ プレゼンテーション1位 「世界津波の日」2019高校生サミット 朝日地球会議2019 JCI JAPAN 少年少女国連大使 科学の甲子園東京都大会 Tokyo Leading Academy 南多摩フィルハーモニー 全国大会出場 「科学の祭典」研究発表会 中学生科学コンテスト 優秀賞 日本地学オリンピック（本校予選会場） 関東・甲信越静地区 高校生探究学習発表会 東京高校生国際会議 みらいをつくる超・文化祭 2019年度全国高校生フォーラム 前期科学部 ふれあい感謝状21 受賞 関東中学将棋 団体戦 C級優勝 中学生即興型英語ディベート交流大会 公立中高一貫校西地区百人一首大会	A	理数リーディング校として様々な大会やコンテストへ参加している。今後は各コンテスト等でさらに上位入賞できる指導を検討する。

項目	目標	取組と自己評価	達成度	課題と対策
経営企画室との連携	校長、副校長、室長の毎朝の打合せを通し、経営参画型の経営企画室の運営を行う。	日常的に学校運営についての意見交換等を行い、学校運営に対する経営企画室の参画を推進した。	B	効率的な意見交換等により学校運営を進める。
	適正な自律経営予算の策定と執行に務め、学校全体のコスト意識を高める。	予算調整会議をはじめ企画調整会議等において予算上の課題を共有し、コスト意識を高めた。	A	大きな課題はないので継続する。
	施設・設備の活用状況や修繕箇所の把握を行う。	修繕箇所の把握はできたが、予算上の課題があり修繕が進まない部分もあったが、空調設備の整備を進めた。	B	継続的に増改修の要望を出していく。
働き方改革について	教職員は各自週1回の割合で、定時退勤日を設け、年度当初の自己申告書の自由記述欄に記載し、ライフ・ワーク・バランスの推進に努める。	部活動指導や保護者からの電話対応など、勤務時間を超えて行う業務が多く、思うように進まなかった。	C	引き続き、ライフ・ワーク・バランスの推進に努めていく。
	効率的な職務遂行を目指し、フレックス勤務を想定した時間割作成を研究する。	土曜日に授業がある先生には、平日1回半日の空き時間ができるように工夫しているが、全員はできなかった。	C	展開授業の多い先生の時間割の組み方について、研究を進めていく。

【備考】表中の「達成度」は以下の基準によるものとする。

- A 目標に対する取組が十分であった。 C 目標に対する取組が一部不十分であった。
 B 目標に対する取組がほぼ十分であった。 D 目標に対する取組が不十分であった。

【重点目標・目標数値】

校長 永森比人美

平成31年度（令和元年度）目標数値			31年度結果	30年度結果	29年度結果	
学力向上	生徒による授業評価において、学習効果の項目「授業を受けて学力や自分の進歩を実感できる。」の到達率ー		80%以上	79.0%	78.9%	78.5%
	前期課程：都調査、全国学力学習状況調査、学力推移調査結果で前年度を上回る。		1 ポイント	1年：＋3.3 2年：＋3.6 3年：－7.6	1年：＋1.9 2年：－2.5 3年：－0.7	1年：－0.5 2年：－3.2 3年：＋3.0
	後期課程：同一学年の外部模擬試験結果で年度末のS段階・A段階の割合が前年度を上回る。		1 ポイント	4年：－0.2 5年：－5.7 6年：＋4.0	4年：－5.2 5年：＋2.2 6年：－1.0	4年：＋18.8 5年：－8.2 6年：＋1.2
	5 年生	国数英の3教科で学習到達ゾーンA段階を超える生徒	70%以上	75.2%	81%	95.40%
		C段階の生徒	ゼロ	0.1%	ゼロ	4.6%
	2 年生：GTEC for Students Core	平均点	505点	515.6	375.5	396点
		570点以上の受験者	20%以上	23.7%	39.3%	63.0%
	3 年生：GTEC for Students Basic	平均点	590点	586.7	506.6	524.6点
		615点以上の受験者	20%以上	38.2%	51.8%	67.1%
	4 年生：GTEC for Students Advanced	平均点	830点	903.8	548.6	536.6点
		920点以上の受験者	20%以上	41.0%	15.6%	13.9%
	5 年生：GTEC for Students Advanced	平均点	870点	968.4	570.8	556.1点
		1010点以上の受験者	20%以上	27.5%	7.4%	7.0%
	留学に挑戦する生徒		年間1～2名	1名	1名	3名

	平成31年度（令和元年度）目標数値		31年度結果	30年度結果	29年度結果	
進路指導	教員の進路分析会を実施する		年間2回以上	年2回	年間2回	年3回
	入試問題分析集の作成	センター試験入試問題分析集を生徒配布	5月に	5月	4月	5月
		難関国公立大学入試分析集を生徒に配布	7月に	7月	7月	7月
	3年生：研究開発型大学や研究室訪問を実施		1・2学期に	2学期	1・2学期	6月実施
	4年生：2学期までに文・理選択及び希望学部の方方向性を決定している生徒の割合		7割以上	100%	94.1%	92.7%
	5年生	9月までに希望学部・学科を具体化している生徒の割合	8割以上	97.9%	97.8%	94.0%
		受験体制に入る時期	10月	10月	10月	9月後半
		全ての生徒が希望大学を具体化させる時期	3学期	3学期	3学期	3学期
	6年生	研究開発型大学への進学を目指す生徒の割合	8割以上	94.2%	74.0%	97.4%
		センター試験 5教科7科目を受験する生徒の割合	6割以上	61.0%	42.7%	49.3%
		センター試験・難関国公立大学合格可能点数（8割）水準以上の生徒の割合	1割以上	18.4%	14.5%	14.9%
		難関国公立大学合格者数	13名以上	現役13名	7名	10名
		国公立大学現役合格率	3割以上	49.6%	34.5%	30.9%
生徒の心のケア	S C連絡会の開催	前期課程	週1回開催	週1回開催	週1回開催	週1回開催
		後期課程	月1回開催	月2回開催	月2回開催	月2回開催
	いじめのアンケートの実施		年間3回以上	3回実施	3回実施	3回実施
	学校医等と連携した講演会を実施（今年度より、産婦人科医及び精神科医等と連携した講演会を実施）		それぞれ年間2回程度	それぞれ年間2回	3回実施	3回実施
	特別な支援の必要な生徒の個別指導に資する研修会を実施		年間3回以上	3回実施	2回実施	1回

	平成31年度（令和元年度）目標数値		31年度結果	30年度結果	29年度結果
募集対策	適性検査の倍率		5倍以上	5.33倍	5.19倍
	ホームページの更新回数		300回以上	550回	500回
	授業公開、学校紹介・学校説明会等	実施回数	30回	30回	40回
		参加者数	3500名以上	4865人	4,765人
その他	服務事故等重大事故		ゼロ	ゼロ	ゼロ